

「人権の花」運動について

7月14日(水)に、富小学校の1～6年生により育てられた「人権の花」運動の花が、富地域内の事業所(富振興センター、富郵便局、富地域福祉センター)に届けられました。ポットに種をまいて、プランターに移植し、児童が協力しながら育てた花を多くの方に見ていただき、やさしさや相手に対する思いやりの心を持ち、人権への理解を持ってほしいとの思いが込められています。



「人権の花」運動について

「人権の花」運動は、児童が「人権の花」を栽培することにより、命の大切さ、お互いの立場を考え協力し合うことを理解し、思いやりの心を育てていくことを目的として、昭和57年から実施しています。

津山地域人権啓発ネットワーク協議会※1においても、毎年「人権の花」運動を実施しています。

近年「命の重さ・尊厳」を痛感させる事件・出来事が多く発生しており、当ネットワーク協議会においても、「人権の花」運動を通じて、子どもたちが花を育てることにより、命の大切さを実感し、思いやりのある人間に育っていただきたいと考えています。

※1 津山地域人権啓発活動ネットワーク協議会の構成員

岡山地方検察庁津山支局、津山市、真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町、津山人権擁護委員協議会



100歳おめでとう！

8月のお誕生日で100歳を迎えられる杉田志津子さん(香々美)に、山崎町長から記念品が贈呈されました。

杉田さんは土居でお生まれになり、21歳で結婚されましたが、結婚式を挙げるとすぐにご主人は戦地に赴かれたそうです。「三度の負傷に遭いながらも、終戦直後に白衣一つで帰ってきてくれたが、曹長という階級で部下もあつたため、軍人根性が抜けず、私はいつも「一等兵」と面白くお話ししていただきましたが、「戦争はもう二度と体験したくない。コロナも終息し、幸せな世の中になったのを見届けるまで生きたい」と強い思いを述べられていました。

お仕事は、結婚前から農協に勤められ、定年退職された55歳までバイク通勤をされていたそうです。また、民生委員を長年務められたとのことで、仕事や委員活動での思い出なども聞かせてくださいました。

ご長寿の秘訣を尋ねると「46歳の時に始めた詩吟を今日まで続けてこられたこと、畑仕事や55歳から万年青の栽培を続けていること。」と教えてくださいました。また、好きな食べ物、刺身・鰻・寿司・うどん、だそうで、今でもご自身で台所に立ち、必ず一品は野菜料理をすることを心掛け炊事をされているそうです。「健康第一、何事も前向きに考え、いつも感謝の念を持つようにして過ごしている」とイキイキとお話してくださいました。

